

流山市会議員 藤井としゆき通信版

平成 22 年 1 月 21 日 発行

発行責任者 流山市議会 民主党 代表 藤井俊行

流山市平和台 1-1-1 TEL. 7150-6099 (議会事務局直通)

流山市西初石 1-776-36 TEL. 7152-3000 (自宅事務所)

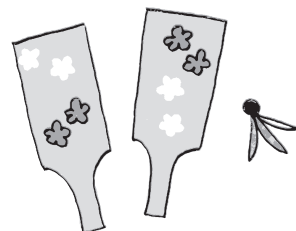
HP : <http://www.chiba-fujii.com>

メール : go@chiba-fujii.com



謹賀新年

皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。



流山市議会民主党市政ニュース読者の皆さま、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。私は編集担当のK記者で～す。今回は藤井俊行流山市議会議員に昨年を振り返って感じたことや新年の抱負などを取材しました。よろしくお願します！

K記者●●昨年は衆議院総選挙で政権交代が実現し、歴史が変わったといわれる年でした。また、流山市議会でも議会基本条例が制定されました。議員である藤井さんにとってはどんな一年でしたか？

藤井●●議員の活動には、大きく分けて二つあります。議会活動と政治活動です。議会活動の中には、当然本会議での一般質問や委員会での質疑も含まれる活動と担当部局に対して市民要望を届けることや調査研究する日常活動が含まれます。例えば、平成 21 年 11 月 28 日に南流山センターで議会報告会が初めて議会主催で開催されましたが、これは議会活動になります。議会では、初当選時から必ず一般質問を行っています(毎回実施はこの 7 年間では 28 名中 4 名)。

政治活動は政党の活動が主になりますが、国政や他市での選挙応援、そして日常の市政ニュースの発行、市民要望の聴取、議員個人としての市政報告会なども含まれます。衆議院総選挙では、議会の日程以外は流山地区選对本部長、第七区幹事長代理として終日事務所に詰めて、日々の計画書の作成、各担当者への指示・要請、街宣車にて市内を回り、政策の訴えを行いました。

実は 2009 年ほど忙しい年はありませんでした。それは民主党会派の代表・議会基本条例策定特別委員会副委員長、農業委員会委員・民生委員推薦委員会委員・平成 20 年度決算審査特別委員会委員・議会運営委員・市民経済常任委員・TX 沿線整備と新川耕地周辺特別委員会委員・12 月議会では後

期基本計画審査特別委員会委員、そして議会活性化推進特別委員会委員長。所属委員会が議会でも圧倒的に多いため、1 日に 4 つの会議に出席という日もありました。

K記者●●議員生活はハードですね。ところで、後期基本計画審査特別委員会とは何ですか？

藤井●●総合計画基本構想は、すべての計画の基本で行政運営の総合的な指針となる計画ですが、流山ではそのうち後半の 10 年間(平成 22 年～ 31 年)が後期基本計画になります。さらに実施計画は、上期 3 年、中期 3 年、下期 4 年に区分されます。こういった計画を議会で審査することになったのは、昨年 4 月に同時施行された自治基本条例と議会基本条例に議会の議決権の拡大という項目が盛り込まれたからです。同じく議会基本条例では議会報告会や意見交換会も実施が義務づけられています。こういった活動を積極的に実施することによって市民の意見がより一層、政策に反映できる仕組みになったと思います。

K記者●●議会改革で取り組んでいることは何ですか？

藤井●●議会基本条例が策定されることによって、議員の活動が明文化されました。今までの議員活動は、市長や行政のチェックと称して文句をつけているだけと言われても否定できない面もありました。しかし、これからの議会は選挙のための個人宣伝の場ではなく、議会全体として二元代表制に相応しい活動を明確にしました。条例や政策の提案もその一つです。こういった活動を行っていくためにも議員同士が十分

に議論すること。そして、市民との意見交換も不可欠になってきます。活性化特別委員会では、ICT化(注1)の推進策の一環として、議案等に誰が賛成し、誰が反対しているかが明確に分かる、電子採決システムの導入も検討しています。近隣市を調べると、システム一式で八百万円、あるいは年間一千万円という事例もありますが、驚くほど高い。そこで一般に流通している商品の活用は出来ないかということで探していましたが、青山学院大学などで活用しているシステムがあることが分かりました。ご存知の方も多いと思いますが携帯端末を活用することによって、初期投資が百五十万円程度と非常に安価。しかもランニングコストも年間五十万円前後。これならば市の負担も大幅に軽減できることとなります。採決の明確化が図れ、このシステムをさらに活用する可能性もあるのです。

注1・・・ICT化(Information and Communication Technologyの略。情報(information)や通信(communication)に関する技術の総称。日本では同様の言葉としてIT(Information Technology:情報技術)の方が普及していたが、国際的にはICTがよく用いられ、近年日本でも定着しつつある。)

K 記者●●そうですね、市民感覚として国や市等の行政が発注するものは高い。公共工事でもわかります。民間で流通しているものは本当に、企業努力をして売れるような価格帯ですから安いんですよね、良いところに目を付けましたね。こういう視点も国政や市政でもどんどん取り入れるとべきですね。他にICT化の推進で市民生活は良くなりますか？

藤井●●以前の議会は機関委任事務と言われ国の決定が県に降りてきて、それが市に降りてきて決定するというもので、国の決定を追認するという形でした。ですから議員は新たな政策の提案もしなくて良かったし、地域の要望だけを政策に加える要望だけの活動をしていれば選挙で当選する、ということが多かったようです。しかし、機関委任事務が廃止され、地方分権が進む中、議会自らの政策や条例の提案など、権限が拡大しています。市長の提出した政策の賛否だけを表明していたのでは、今の時代に合わなくなっています。また、市長の提案することがすべて市民の利益になるとも限りませんし、16万市民の声を市長が聞くことも不可能です。市長に変わり議会(28名の全議員)が報告会や意見交換会を積極的に開催して、市民ニーズの把握に努めていくことも大事です。そのツールとしてICT化があります。各議員がメールアドレスを持って公開することから始まり、様々な展開が予想できます。私は平成15年に議員になる以前からHPやブログを公開し、メールアドレスはもとより自宅住所、電話やFAX番号、携帯番号等を全面公開しています。これは出来る限り、私の活動を知っていただく為でもあります。市民の声を聞くためでもあります。流山市議では28名中5名程度が個人のHPを公開しています。会派では1会派が公開しています。ICTを推進することによって個人のHPが増えることにも期待しています。そしてブログやツイッター、ユーチューブの活用へと発展することも期待できます。公開する情報が多くなることによって市民の関心も高まるのではとも思います。市民の関心が高まれば、市民も議会に参加して意見がより反映される



携帯端末

市政が変わっていきます。今の時代で議会改革を進めていく上では、ICT化の推進は不可欠な政策だと思っています。

K 記者●●次は興味のあるところで、無所属議員と公認候補の政党所属議員とあり、藤井さんは民主党の議員ですが、どうしてですか？

藤井●●この問題も長くなっていますが、簡単にいえば、政権交代が

いつでもできるような2大政党制の成熟を望んでいます。また、市政では、市レベルだけでは政策が進められないことが数多くあります。県政や国政との連携を図るためにも政党に所属する必要があります。今回は民主党が政府与党となりましたので、更なる政策実現が出来ると思います。先月は井崎流山市長からも国に対する要望(出前民主党)として四項目を伺いました。民主党の良い点は、ガチガチの党の指示を聞けという姿勢ではないことですね。独自に任されていることは助かります。また、選挙中でも政党にだけ認められている機関誌の発行が出来ます。多くの無所属議員が選挙前に発行しているチラシ等は、ほとんど選挙違反です。たぶん知らないで活動しているのでしょうか。こういった問題も民主党政権になり公職選挙法の改正が期待されています。

K 記者●●選挙の法律って難しいんですね!それでは最後に、藤井さんの今年の活動と抱負を聞かせてください。

藤井●●議会改革、中でもICTの推進で議会の見える化⇒開かれた議会⇒市民の声を聞き市民の立場に立って政策提言していくことです。私は労働組合の皆さまからも応援されています。労組というと圧力団体ではと思われがちですが、この七年間、一切ありません。マスコミなども誤った報道で誤解されているのでしょうか。こういった組合員の方たち、特にパート社員の方たちとは積極的に意見交換を行いたいと思います。パート社員の皆さまは地域に密接にかかわっていますし、私の政策の一つでもある子育て支援についても情報が頂けます。昨年は勉強会や意見交換の場を7回ほど設けていただきました。今年は、議会主催の市民との意見交換会を含めてパート社員の第一線の皆さまの意見も集約して政策実現していきたいと思います。日々の活動もブログで紹介していますので是非ご覧ください。役に立つ内容にして、アクセスを増やしていきたいと思っています。ご協力お願いします。

藤井としゆきブログ

<http://yaplog.jp/toshi321/>

